

**第3回小牧市立米野小学校改築基本設計業務委託
プロポーザル審査委員会議事録【一部公開】**

1 会議の名称

第3回小牧市立米野小学校改築基本設計業務委託プロポーザル審査委員会

2 開催日時・開催場所

令和5年8月3日（木） 午後1時30分から午後5時30分
小牧市役所 本庁舎4階 404会議室

3 議題

- (1) プロポーザル審査基準、選定方法について
- (2) プレゼンテーション及びヒアリング
- (3) 選定

4 出席者

(1) 委員

中村委員（中部大学教授）
鈴木委員（名古屋市立大学特任教授）
富嶋委員（米野小学校長）
中川委員（小牧市教育委員会教育長）
伊藤委員（小牧市教育委員会教育部長）

(2) 事務局

小牧市教育委員会事務局 矢本次長
小牧市教育委員会事務局 教育総務課 丸藤課長
小牧市教育委員会事務局 教育総務課 笹尾係長
小牧市教育委員会事務局 教育総務課 江口主事

5 傍聴者 6名

6 会議の内容（プレゼンテーション及びヒアリング）

- 1 者目（受付番号5番）ヒアリング -

（中川委員）

御社は、豊かな自然と歴史を受け継ぐということをメインにしながら、それぞれの人がつながっていくことを意識しており、そのために、こめのホールとメディアセンターをメインにした配置を計画していますが、メディアセンター、こめのホールの活用の状況というのは、どのようにイメージをし、設計されたか教えてください。

（受付番号5番）

今回、改築のコンセプトでもあるように、教師と児童だけの関係性ではなく、地域との関係性、つながりというのが大切かと思います。

そのため、地域開放できる部分、学校で使われる部分というのを、段階的なセキュリティを設けながら、地域の方にも、メディアセンターを利用できるような配慮をし、学校の中に地域の方が入ることで、特定の世代だけの交流ではなく、多様な世代との交流が生まれるような運用ができないかと考えています。

そうすることにより、生きる力を育ていけるような、多世代との交流の中で子供たちが成長できる環境として、こめのホール、メディアセンターを利用できるようにしたいと思います。

そのためには、どうしても地域の方々からの運用方法に関しての色々なご意見を賜る必要があると思いますので、ワークショップ等で使われ方についても協議をしながら、設計は詰めていきたいと考えています。

（鈴木委員）

既存の緑を取り込んだ素敵なプランニングと思いながらお伺いしていましたが、配置を考えるときに、二案の配置を主に比較されています。駐車場については、二案とも西側の通路側で考えておられるが、例えば北側、南側の駐車場配置については、検討の俎上には載らなかったのでしょうか。

（受付番号5番）

現地を見学したところ、児童クラブが一番南側にあり、児童クラブのための駐車場が、北側で非常に距離があり、不便なのではと思いました。

環境からいくと、やはり校舎の近くに駐車場が無いほうが良いと思いますが、地域の方々に愛される学校作りのためには、使い勝手が良いことも重要だと思

います。

今回のレイアウトも北西側に児童クラブを配置し、できる限り駐車場に近く、お迎えがしやすいような作りになると非常に使い勝手が良く、地域の方々からも喜ばれる学校になるのではないかと考えています。

北側の駐車場も検討してみましたが、やはり距離があるということで近づける方向としたら、西側に集約して地域開放エリアということで駐車場まで取り込むような形の配置ゾーニングがふさわしいと感じ、北西方向でバリエーションを変えて検討をしました。

(鈴木委員)

大きくは東側が児童の歩行空間で、西側道路はどちらかということ車両中心という大きなゾーニングを思い描いていますか。

(受付番号5番)

おっしゃるとおりです。

(鈴木委員)

取組体制のところ、「学校のトイレ研究会」の皆さんと一緒にワークショップとあります。

私もよく存じ上げていますが、「学校のトイレ研究会」の皆さんから、どんな知識や専門性、何を期待しているか教えてください。

(受付番号5番)

改築協議会や、児童ワークショップの内容を見ると、トイレに関する要望等が多く出ていたと認識しました。

そういった中で、こんな学校のトイレがあるんだよということを、トイレ研究会の方に講師として紹介していただき、それを発想の種のようなイメージで、じゃあこんなトイレはどうなのか、といった意見が出るようなワークショップを思い描いています。

(鈴木委員)

設計事務所の皆さんですから、トイレに関して非常に専門性を持っておられると思いますが、これからのトイレの在り方が今までと少し違っているところなどを想定してということでしょうか。

(受付番号 5 番)

そのとおりです。特に LGBTQ の方に対してのトイレ等、そのあたりの考え方も、これからの時代に求められると思います。そういった最新事例などを紹介しながら、それが建設の機会に巡り合う子供たちにとっても貴重な時間になると考えています。

そういった中で、こんなトイレの考え方があるんだということを勉強してもらいながら一緒に考え、新しい学校作りに反映できるといいのではないかと考えています。

(伊藤委員)

基本構想・基本計画では、グラウンドに 200mトラックと 100m直走路を求めています。この提案で確保されているかどうかを教えてください。

(受付番号 5 番)

100m直走路は斜めのレイアウトですが、どちらも確保できています。

ただ、運動会などを行う時に周囲の余地がどうだろうということは必ずあると思いますので、その辺り少し調整しながら、設計業務の中で詰められればと考えています。

配置図にあるとおり、グラウンド東西のところで、それぞれ登下校の動線として使えるプロムナードを計画する予定にしていますので、そうした運動会のイベントとして使うときに、グラウンドのスペース以外、周囲のところも含めて、運用性とバリエーションを含め、今後検討していきたいと考えています。

(富嶋委員)

本校は、南西の方面から、子供たちが 40名弱ほど登校してきます。その子供たちの通学動線が確認できないのですが、どのような動線を考えているか教えてください。

(受付番号 5 番)

体育館の横にサービスヤードを設けていますが、そちらの使い方も基本設計の段階で協議をし、例えば敷地内に少し安全な歩道、スペースを整備して対応するというのも考えています。

その際に、給食の搬入動線と交錯する可能性もありますが、それは給食の時間なので、時間帯の管理によって安全を確保するという制御の方法があると思います。

(富嶋委員)

御社の提案ですと、プールが3階に設置されています。例えば屋上にプールを設置すると、敷地面積が有効活用できるのではと思いましたが、プールを3階に設置した理由を教えてください。

(受付番号5番)

3階に設置しているのは、一つは災害時の対応ということで、例えば災害時断水したときには、その重力を生かして自然流下ができるということと、緑が多い学校の敷地ですので、平場にあると、落ち葉等の影響もあって、維持管理がしづらいのではないかと懸念があったことから、3階部分といいますか、2階の屋上部分に屋外のプールというイメージで計画をしています。

プールの利用頻度からいくと、一番高い位置にあっても、全体の動線としては混乱することはないのではと考え、3階に設置した形になります。

何よりも建物の上に乗せているのは、北側に広くグラウンドを確保するというのを第一に考えた結果です。

(富嶋委員)

本校の敷地が狭いのは十々承知しており、だからこそ余計にプールを屋上に持っていったほうが、1階、2階、3階のスペースも使えるということで先ほどご質問させていただいたのですけれども、あえて屋上に無く、3階にプールがあるという理由を教えてくださいという趣旨の質問でした。

(受付番号5番)

3階にあげることで下のフロアが有効に使えるという考え方です。すみません、十分理解ができておらず申し訳ありませんでした。

体育館の上も高さとしては3階相当のさらに上に設けることにはなりますが、今回我々の提案では体育館ではない他のエリアにプールを設けていますので、ご質問いただいた内容とは回答として逸れるかもしれませんが、体育館部分の空間の自由度ですとか、構造躯体のボリュームをよりコンパクトに、合理的な計画にできるということも含めて、体育館の上ではないところに計画をしている形になります。

また、平面的な形をお伝えさせていただきますと、図面左側にありますエレベーターと階段は1階からプールまで続くものになります。

プールを体育館等の上に設ける場合、バリアフリーの対応でプールに上がるためだけのエレベーターを別で設けることもありますが、我々の計画では、下からずっとつながっているエレベーターをそのまま使い、プールのほうまでアプ

ローチできる合理的な計画にしていけたらという思いで、体育館の上ではなく、ずらした位置にし、縦動線はすべて兼用してプールまでアクセスできるよう考えています。

(富嶋委員)

1階給食室が児童クラブの横にあり、エレベーターはこめのホールのほうにあります。給食ワゴン等をエレベーターで上げることを考えると、2階、3階の配膳室が真上ではなく、離れたところにあるので、エレベーターから各階配膳室までの動線が長いように感じています。

(受付番号5番)

今は教材庫の横、教室寄りに配膳室が配置されています。本来であれば、エレベーター近くに配膳室があり、そこまで児童が取りに来るほうが給食職員の皆さまからすると理想的な動線かと思しますので、そのあたりの配置は十分見直せると考えています。

(鈴木委員)

説明の冒頭に工事を通して愛着を持てるというのが一番に挙げられていて、とても面白い考え方だなと思います。しかし、通常工事期間はどちらかという嫌がられるというか、早く終わってほしいという感覚になると思いますが、これはどのような方法を考えられているのか、設計事務所としてどんな立場でやろうとしているのか教えてください。

(受付番号5番)

今回は基本設計業務ということですので、実施設計や工事監理の段階まで口を出していいのかというところはありましたが、学校づくりの経験の中で子供たちが一番生き生きとして学校づくりに参加できるのは、現場が始まってからと感じています。

私も経験がありますが、子供たちに職人さんと一緒にタイルを貼ってもらう体験等を通して、工事期間を悪いものとして捉えず、工事現場の様子や、職人さんたちがどのように建物を作っているのか、といったことを学べるきっかけになるのではないかと考えています。

それに参加したということが子供たちの記憶に残れば、新たな学校に対しても非常に愛着を持てるのではないかと感じています。

もし工事監理企業という形で入れたら、現場に入ってからイベントなどを企画しながら、学校に通う子供たち、それから地域の皆さまに、長く愛される学

校作りの一翼を担えたらと考えています。

また、愛着ということに関して、我々の提案ですと、敷地の南東側の既存緑地以外に、例えばおにぎり山や、南東側のほうに様々なモニュメントがありますので、それらについては建物をなるべく西側に寄せて、南東の既存の緑地周辺を残すことで、今までの米野小学校の歴史というものを今後も引き継いで、未来に繋いでいけるような計画にできたらと思っています。

(中村委員)

地域開放部分を西側住宅地に寄せて、東側に既存の緑を活かした子供たちの環境という、全体のゾーニングを大変好ましく思っています。

憩いの庭に対して、2階、3階の教室もあるわけなので、そうした上の階の子供たちが憩いの庭をどのように使えるのかという点と、グラウンドへの子供たちの動線をどのように考えているのかをお聞きしたいと思います。

(受付番号5番)

2階、3階の普通教室にいる子供たちも、屋外との一体感が感じられるということで、安全性に配慮しながら、バルコニーやテラスを設けたいと考えています。

そのテラスが連続する形で、こめのホール、それからメディアセンター側に森のテラスという、少し幅広なスペースを設けて、そこでグラウンドレベルの憩いの庭との一体感が感じられるような作りにはしていけたらなと考えています。

南棟の子供たちも、ワークスペースから、憩いの庭での活動の風景が眺められるような作りになることで一体感のある作りになるかと思っています。

米野小学校は木が非常に生い茂っており、これがシンボルだと感じたので、ここまで育った木をいつも感じながら学習できる環境というのが、米野小学校には一番大切なものになるのではないかと感じ、シンプルですが、コの字型で木に向かって一体感を感じられるような中庭を持つプランを考えました。

グラウンドへの動線については、やはり履き替えの話があると思いますので、その辺りは学校の先生方、教育委員会の皆さんと、相談しながら詰めていく必要があると感じています。

気持ちとしては、休み時間になったら憩いの庭からグラウンドへ走って行けるのが理想とは思いますが、教室の中に砂を持ち込むなどの問題もあるので、憩いの庭の仕上げをどうするかも含めながら調整させていただければと思います。

学校に入ってきてすぐ見えるのがこめのホールとメディアセンター。このメディアセンターのさらに左側が森のテラスで、既存の緑地、憩いの庭の緑が一体的につながるような、学校の中心になる空間として計画できたらと考えています。

（伊藤委員）

学校活動の影響や児童の負担軽減の観点から、工期はできるだけ短く、3年間で改築事業を完了したいと考えているところですが、工期を4年間とした理由を教えてください。

（受付番号2番）

建て替え計画の段階で、グラウンドやプールなどが一時使えなくなることを避けることと、なるべく現状の北側校舎配置というのを計画したいと思い、渡り廊下を挟む校舎ごと1棟ずつをローリングして計画することが、一番この計画に合っていると考えました。

なぜ北側に校舎をまとめたかという点、コストの観点から、なるべく現状のグラウンドや樹木を残すことによって、外構工事等をなるべく軽減したいと考えました。

（鈴木委員）

この配置計画をとる限り、令和10年開校はできないと考えていいですか。

（受付番号2番）

今は令和9年度に北校舎までの工事が終わる予定で、そこから体育館、プールの工事が10年度にかかってくるので、例えば別のプールを利用する形で、校舎自体を開校することは可能です。

（鈴木委員）

昇降口についてお尋ねします。学校作りのセオリーから言うと、校舎とグラウンドの間に昇降口が来るのが普通かと思うのですが、昇降口を北側にした理由をお伺いしたいのと、関連して学校周辺から通ってくる子供たちの数は、南西角が一番多いですけれども、この子供たちが昇降口に至る動線はどのようになるのでしょうか。

（受付番号2番）

昇降口からグラウンドに対して一直線に動線を通し、なるべくグラウンドに対して、動線が円滑に行くように計画をしているつもりですが、この計画を作成するにあたって一番に考えたことは2階、3階の教室の在り方です。

検討段階では棟を分けて渡り廊下でつなぐ案も検討しましたが、学年毎が別の棟になってしまい、一体感が生まれにくいと感じました。全ての児童が一体感がある、同じ学校で育っているという意識を尊重してこのプランを作成しました。

また、地域開放の面から、グラウンドだけではなく体育館も多く地域開放していることから、セキュリティを分けやすくするために体育館と校舎の間に昇降口を設けました。

動線に関しては、今回の整備において、既存の街路樹はなるべく残して、少し歩きやすい、子供たちが思い出になるような道を作れば、遠いということがデメリットではなく、メリットになる可能性もあると考えています。

(鈴木委員)

すみません、南西角ではなく、南東門の方でした。南東から入ってきた子たちは、既存の樹木を抜けて、校舎のグラウンド側を沿って北から回り込むということでしょうか。

(受付番号 2 番)

図面上記載していませんが、昇降口は東西両方から出入りができます。そのため、既存の樹木を抜け、児童クラブとの間を通過して左に曲がり昇降口に入る動線となります。

(中川委員)

こめのっコモン、それからギャラリー関係のところ、縦空間についてはかなりの余裕を感じますが、左右の空間について、みんなの交流を育むというコンセプトが十分可能な空間になっているのかどうか、どのように考えて設計されたのか教えていただけますか。

(受付番号 2 番)

こめのっコモンに関しては、学校の中心になる場所で、これから十分時間をかけて設計していくべきところではあると思っており、今後家具デザイン等によって、領域を作っていくのが重要なことだと考えています。

この空間についても、幅がすごく広いから良いというわけではないと思っていて、今僕らが呼んでいるのは建築化された家具、ファニテクチャーと言いますが、そういうものを空間に合わせて作っていくことで、十分に児童が集まれる、交流できるような空間ができると考えています。

こめのっコモンは動線の中にありますが、家具の高さや幅のデザインによっ

て、動線の中でありながら落ち着いた空間というものを作ることは可能だと考えています。

(中川委員)

特別支援教室が北側にありますが、この配置について、ここに持ってきたという意図を教えてください。

(受付番号2番)

このクラスルームは基本的に同じモジュールで設計しています。そのため、特別支援教室を南側に持っていきたいというご意向であれば可能です。

採光に関しては、必ずしも北側の採光が悪いとは考えておらず、むしろトップライトからの間接光や、南側の強い日差しではなくて北側から回ってくる柔らかい日差しというのも、今回の教室配置を考える上で大事になってくると考えています。

教室レイアウトというのは、今後の検討の中で自由にレイアウトできると考えています。

(富嶋委員)

新校舎と既存の校舎が近接しているように感じるのですが、工事中の騒音や日照など、相当影響があるのではと思います。学校活動を行う上で何か対策や、考えがあれば教えてください。

(受付番号2番)

増築部分は近いので、乾式の界壁を仮設で設けます。二重の界壁の間に断熱、遮熱材を挟み込むことで、騒音の軽減を考えています。

振動についてですが、コンクリート打設時の振動が一番大きいと考えているので、大規模な打設は授業の少ない日程に行い、接続部は、湿式ではなくて乾式工法にするなどの検討をこれから行っていきたいと思っています。

設計をしていくにあたって、少なからず発生してしまう接続工事に対してあまり消極的になるのではなく、これから長く使っていく校舎の内部空間をより良いものにしていくことを最優先にした計画となっています。

(富嶋委員)

平面図を見ると、保健室はグラウンドに面していないというのが特徴かと思えます。保健室から運動場が見えるほうが、何かあった時にすぐに対応にあたれると思いますが、ここに持ってきた理由を教えてください。

(受付番号2番)

一つは相談室の近くに保健室を設けるということ、それから緊急車両が入ってきたときに、正門から入ってくる場合、近くに保健室を設けるということがもう一つです。

グラウンドに面していないことは確かにデメリットではあるので、グラウンドにアクセスしやすい動線を一つ設けています。

(富嶋委員)

車両動線を示す青い線について、敷地南東方向は青い線が道路までで止まっていますが、ここは子供だけが入ってくる出入口ということでしょうか。

(受付番号2番)

ここは現地調査させていただいたときに、現在観光バスが入ってくるとお聞きしたので、観光バスが寄りつける、寄りつくという想定で書いています。なので、ここから校舎内に入ってくるということは考えてはいないです。

ここから観光バスが敷地内に入る現状が、少し大変そうという苦労話をお伺いしたこともありますので、南西側に大型バスを乗り入れられるようなスペースを今回新たに設けました。

しかし、全く車両が入れないようにしてしまうわけではなく、現在の状況をそのまま残すという考えですので、メンテナンス時には車両が入れる場所となります。

(中村委員)

理科室や図工室などの特別教室が地域開放のために1階というのは分かりませんが、低学年の子供たちのことを考え、教室を1階に配置する案は検討されなかったのか、また、子供たちがグラウンドに出るときの動線がどのようになるかお聞かせください。

(受付番号2番)

低学年の1階設置はもちろん検討しましたが、それよりも2階と3階でこめのっコモンでつながる全学年というのを重視したものになります。

グラウンドに出る動線ですが、こめのっコモン中心の大きな階段で降りて、そのまま下に、ここで大きな下駄箱のようなものを設ける必要がありますが、ここからグラウンドに出るときの動線が可能かと考えています。

(富嶋委員)

1階の職員室がグラウンドに面しているというのは、非常に素晴らしいと思いますが、校長室が職員室から隔たれているのは理由があるのでしょうか。また、部屋の入れ替えも可能でしょうか。

(受付番号2番)

応接室と校長室をセットにすることを考えています。恐らく自治体によって考え方も違うかもしれませんが、廊下を挟んで校長室というところも、他の学校でありましたので、応接室とセットでという考え方で今回設計をしましたが、この入れ替えは、今後全く問題なくできるかと思います。

- 3者目 (受付番号1番) ヒアリング -

(鈴木委員)

体育館を取り込む形で校舎が一体的で、外壁が少ないコンパクトなプランニングを非常に上手くされたと思う反面、エコスクールとの関連で言うと、例えばプール下の特別教室のメディアスペースなどの採光や通風が大丈夫なのか少し思うところがあります。2階もそうですが、メディアセンターと職員室との間の幅広の中廊下などは例えば中間期に風が取り込めたり、自然光が入ってきたりすると良いと思いますが、何かその辺りのお考えありますか。

(受付番号1番)

基本的には校舎の中央部に光庭を設けるということで、この部分で基本的な基準法上の採光、通風は確保できています。確かに大きな共用部に関しては、途中に風抜きがありませんので、階段、端部の共用部の開口から風と光を入れていくということになります。

特別教室に関しては、基本的に教室の中が見えるような設えをし、児童が興味を持つようにということを考えていますので、ある程度は共用部側に光も入ってくるということで想定しています。

(鈴木委員)

そうすると3階は、閉ざされた特別教室というよりは、メディアスペースと一体のイメージを描かれているということですね。

(受付番号1番)

その通りです。

(鈴木委員)

駐車場がL字型に西と南にあります。特に1階の低学年の子供たちの教室の前が駐車場になっているということで、教室から外を見たときに、車の姿を見ていなければいけないのかなとか、せっかく地面に設置しているので、外部と内部が上手につながって、いい空間になると良いのではと思いますが、その辺りは何か工夫できることはありますか。

(受付番号1番)

まず駐車場について、南側に関しては、職員用駐車場の台数がこの部分でまかなえると考えていますので、授業中に多くの出入りがある想定ではありません。また、駐車場の裏に2m幅の歩道と、緑地帯、それからデッキ部分を設けていますので、車から5mほど離隔があり、ある程度すぐ外に車があるというよりは、植栽帯などを少し設けて、教室から見える景色を考慮することで教室内の環境も良くなるのではと考えています。

(鈴木委員)

1階周りはデッキがあるということですね。

(受付番号1番)

はい、そうです。

(富嶋委員)

登下校の動線について、本校は南西方面から30名程度の児童が登下校をしています。図面を見ると南西方面に車両動線はありますが、児童動線の記載がないので、南西方向から来る児童の動線についての考えを教えてください。

(受付番号1番)

学校を見学した際に、南東から400名、北側から400名、こちらの南西から50名程度来るといった説明がありました。ですので、主はこの南東門と北西門を想定しています。

この南西門に関しては、一定の空間を設けて、歩行者用の出入口を設けています。ここに歩道帯をしっかり設け、横断歩道をつけながら、安全に歩車分離をし、校舎の中へ入ってく動線を確保しています。

(伊藤委員)

特別支援教室について、落ち着いた環境というところで、東側に置いています
が、基本構想・基本計画の中では、なるべく南面の配置に配慮するとしている
ところですが。

もし設計業務を受託された場合、今後の協議の中で配置が今のように南側が
良いとなった時に、内部外部と共に、柔軟なレイアウト変更というのは可能で
しょうか。

(受付番号1番)

校舎南側のフロンテージがある程度限られていますので、今回のご提案とし
ては、光庭といいますか、ボイド状になった屋外のテラスのある空間を介して、
採光が取れるようにしています。

一部北側に面するような部分もできてしまいますので、南を優先するという
ことであれば、特別支援教室の部屋割りや、部屋をもう少し太らせたような形状
にして、南面を大きくし、部屋の中にできるだけ北側を作らないなどの、対応が
できると思いますので、その辺りは柔軟に対応させていただきたいと考えてい
ます。

(伊藤委員)

必要諸室が増えた場合のレイアウト変更等も対応できそうでしょうか。

(受付番号1番)

学年ユニットの真ん中にワークスペースというマスを取っています。例えば
将来的に児童数が増えた場合に、まずは多目的教室を普通教室に変える想定を
していますので、それを超えてしまう場合に対してワークスペースを南側に持
ってくることで、普通教室に使えるということも考えていますので、ある程
度柔軟に教室を取れるような構成にはしています。

ですので、計画段階でもっと増えるということであればもう少し全体のスパ
ンや配置を見直すというのがありますが、万が一予期せず増えるという場合
にも対応しやすい設計がしたいと考えています。

(中川委員)

改築のコンセプトの中で、学びをつなぐということが出ており、それに合わせ
ての設計をお考えいただいたと思います。

先ほどもありましたが、メディアセンターと教科メディアスペース、この辺り
を一体的に広げていくという考えがあったと思います。教科メディアスペース

について、具体的に展示や発表以外に、こんな活用が可能ではというアイデアはありますか。

(受付番号1番)

普通教室にワークスペースがあって、教室にとどまらない学びを拡張するという考えだと思うのですけれど、特別教室についても同様のことが言え、同じようにワークスペース的な空間が、特別教室は外にあります。

例えば理科のグループワークを班分けして外で行うなど、中で調べ物をして外で発表するなど、そういった様々な使い方ができると思います。

この教科メディアスペースに関しては、各教科を横断して使えるということで、より色々な教科とか、そういった活動に触れる機会が出てくるだろうということです。

1・2階のメディアセンターで図書室とパソコンルーム、およびグループワークをするようなスペースをまとめて取っており、1・2階と教科メディアスペースは空間としては切り離されたものになりますが、例えば教科メディアスペースの家具に、一部教科に関連した書籍を置いたりすれば、この部分に関してもメディアセンターに近いような運用が図れるのではと考えています。

もちろん本の管理など様々な話がありますので、この部分の運用については相談しながら決めていく必要がありますが、1・2階のメディアスペース、それから3階の教科メディアスペースというのは、同じ考え方で空間を展開できればということを考えています。

(中村委員)

ZEB Ready の断面図を見ると大きな光庭があって、そこで外部と全てが接している様な印象がありますが、平面図を見ると光庭が平面的には小さくて外部と接する部分が比較的限られているように見えます。全体をコンパクトに納めて非常に効率よく計画ができあがっていると思うのですが、この光庭をもう少し豊かなものにして、外部とつながった印象をつくるためにどのような考えがあり得るのかということ、もしこれまでのさまざまなスタディの経緯でお考えのことがあればお聞きしたいと思います。

そして、体育館が2階というのもやはり全体をコンパクトにするためにそうした選択になったと思われますが、例えば災害時の避難所ということ考えたときに、そうした欠点をどのように解決できるか、どのように考えていくかということをお聞きしたいと思います。

もう1点、先ほども話題になりましたけれども、メディアスペースと教科メディアスペースというのが、1・2階と3階に分かれています、もう少し空間的

につなげて一体化させる可能性がなかったのかをお聞きしたいと思います。

(受付番号1番)

まずは光庭についてですが、確かにこの断面図を見るとかなり開放的な形で見えています。中央に2ヶ所の8m角程度のボイドを取るということで、検討をしています。

この部分のスパンを少しずつ、あと1m、2mでも広げるような対応であったり、隣接するトイレのレイアウトをもう少し考えたり、中央部のボイドを大きくするような設計上の工夫ができると思っています。

ただ、ハーモニカ状に二列に配置した校舎などは、スタディの中では難しいと考えましたので、このボイドをもう少し大きくしていくというのが、実際の設計上の配慮としては対策ができるかなと考えています。

体育館に関しては、1つは重層化するということで、音の問題等のリスクも当然ありますが、今までの設計実績の中でも、床を遮音仕様で浮き床にし、下階の天井を防振用の天井にし、グラスウールを敷けば、下の階では、騒音レベルとしてはNC45くらいという、普通の事務室並みの環境は確保できますので、給食室、児童クラブ、会議室のような部屋であれば問題ないと考えています。

さすがに英語のヒアリング等を行う教室は難しいですが、それ以外の部屋を下に配置しているということです。

また、避難所として、体育館を使う場合の運用がどうかということですが、1階の地域玄関から階段、エレベーターですぐに上がれる構成としています。屋外階段も付けていますので、外から階段で上がって、2階を単独で使うといった運用もできるかと考えていますので、1階にある分に比べれば若干不便ではありますが、重層化することの欠点というのは補えるかなということで考えています。

そして最後に、メディアセンターと教科メディアスペースが一体にできないかということで、ご指摘のとおり、我々も三層一体の上部に抜けたような空間をできればと考えましたが、この提案としては、特別教室の上にプールを置くということを優先させたために、現在のレイアウトになりました。プールがあるとトップライト等色々なものが取れず、ある程度閉塞した空間になっていくことと、1・2階連続したスペースで、およそそのメディアセンター自身の面積は確保できており、教科メディアスペースというのはご提案で、共用部を広げたような空間の扱いをしていますので、空間的にはやはりつなげたいのですけれども、計画上はなかなか難しかったということで、ご理解いただきたいと思います。

ただ、おっしゃるとおり、空間の性質としては近いものがありますので、やはり整備の在り方とか空間の在り方、使い方は、メディアセンターも教科メディア

スペースも、同じような使い方ができるように、設計のほうは考えていきたいと考えています。

(鈴木委員)

検討の段階で、例えば4階にすることでもう少し広げるなど、ここまでコンパクトにしない手もあったのかなとは思いますが、そういったことはお考えになりましたか。

(受付番号1番)

配置計画としては、小学校の校舎と体育館、それから複合する児童クラブをどう配置するかというのがテーマだと思います。

その中で4階か3階かというのは当然案を作って検討はしましたが、4階にしても一部不便なところができる傾向になりましたので、やはり低層でコンパクトにまとめて、内部の空間がつながっており、一体感のある学校のほうが子供たちの学び舎としては最適ではないかということで、三層の教室構成というのを提案しています。

もちろん4階に一部作るということで、何らかのスペースを取るということもあるのですが、あとはプールを屋上に重層化するという点に関して、四層配置でマスを小さくしていくと、なかなか上にプールが載らないということもありましたので、今回は三層の提案とさせていただきます。

- 4者目 (受付番号4番) ヒアリング -

(中川委員)

屋根のある広場で児童、職員、地域をつなぐということを第一に挙げていただきましたが、屋根のあるスペースからコモンズの一带について、本校は在籍する児童の多様性が非常に高い地域になります。その多様性をどのように展開していくのか、という点についてお考えになっている具体的なものがあればということ、2点目は屋根のある部分が北西側になりますが、この辺りの季節風への対応について、3点目は体育館が北東側にあります。体育館は避難所運営をしていく際に活用される部分になると思います。大型車両等の旋回地帯については南角というお話でしたが、ここまで入っていくことが可能かどうかということの3点を教えてください。

(受付番号4番)

多様性の高い地域ということですが、今回米野コモンズを3つに分けている

のは、自分の好きな居場所を選べるということをテーマにしています。

そのため、学びの中心であるメディアセンター、発表の部分、交流の部分と、それぞれ自分の居場所を見つけながら好きな場所で学習をするということが今回の特徴と思っています。

風について、伊吹おろしの検討をしています。風のシミュレーションをしており、シミュレーションでは、西側の住宅の地域、それと既存の生垣を生かすと、北西角の部分が非常に風の弱いゾーンになっていることが分かりました。

今回グラウンドからの出入口をつけた場合、砂が入ってくることも想定されるので、広場の部分から西側に昇降口の出入口を設け、砂が入ってきづらくすることも踏まえて、風の弱いこのエリアを検証した上で設けているという形になります。

大型車両については、給食室の外側も6 m以上スペースがあり、こちらの部分を通って入ることも緊急時の場合は十分可能な寸法を確保しています。

ご質問のありました車寄せの部分等、十分車が寄せて付けることができますので、給食室の南側から入って、体育館側等、北側に車を回していくことも可能な寸法は確保しています。

(富嶋委員)

テラスのある広場、非常に印象的で良いなと聞かせていただきました。それに関して、広場が北側に面し、軒が深いので、その部分に子供たちが集まれるという点では有効かと思いますが、少し薄暗いのではないかと心配しています。明るさについて問題ないかが1点目です。

2点目は、子供たちがそこで十分活動できるというのはよく分かるのですが、昇降口の開口部も広場に面しているので、活動をしつつ、出入りする子供たちの動線が被らないようにということで何か考えてみえるかなという点。

広場に関して、空間が確保されていて良いなと思いますが、逆に天井が高い分メンテナンスや、クリーニング等は将来的に難しい、やりづらいのではないかと思います。例えばツバメが巣を作るなど。そういうことも十分考えられますので、その点については何かお考えがありますか。

(受付番号4番)

1点目は北側で暗いのではということですが、北と西と二面開口があり、天井の高さが高いので北側といえども、かなり明るい空間になると思います。

2点目の子供の出入口です。現状昇降口のメインは広場に面した西側を考えていますが、開口としては職員来客用の玄関として北から西にかけて二面入り込みがありますので、広場を使っているときは例えば西側の入り口を止め、北か

ら出るということも可能かと考えています。

補足ですが、ステップコモンズについても、通常はメインの動線ですが、ここで発表しているときは、その下に併設している階段を動線として使えば、そのまま使っている、使っていない子供たちの移動は妨げられないような工夫は十分可能かと思えます。

天井が高いことについて、まず安全性等の問題もあるかと思えます。

天井については、コンクリートの躯体で作る、落下しない吊天井ではないものを採用するというような事例もあります。

メンテナンスについては、だいたい6.5m程の高さがありますので、それをどうするかは協議になりますが、二層も三層も高い部分ではないので、ある程度高い脚立等で一部は対応できると思っています。

照明器具の選定等も含め、メンテナンスがかかる内容については設備的な対応もあるかと思えますので、そのあたりも含めて検討したいと思えます。

(鈴木委員)

1階南側に低学年の普通教室が配置されていて、その先が駐車場になっているので、せっかく低学年の子供たちの教室が地面の近くにあるけれども、景色が殺伐とした駐車場となるのは好ましくないと思えますが、その辺りはどのような工夫をされるかお聞きしたいです。

(受付番号4番)

図面で見ると少し狭く見えるかもしれませんが、歩道の部分で3m、植栽の部分でも3mありますので、教室の壁から駐車場で6m程の距離があります。

そのため、例えば低学年ですと朝顔を育てる等、授業で色んな活動をされますが、この南側の部分に並べても、まだ植栽帯があるので、今の米野小学校の中にある朝顔を並べていたスペースよりは、十分広く取れると思えます。

あとは、植栽の選定で低木、中木等を並べながら、あまり視界を遮らないような形で車の排気ガス等はここで緩衝材を設けるということがまず必要かと思えます。

(鈴木委員)

大きな屋根の広場が、伊吹おろしにさらされるのではないかと直感的には思いましたが、風のシミュレーションをされており、植栽帯とその先にある住宅が直近にあるので西側は割と風が弱く、その先は少し強くなるという理解でよろしいでしょうか。

(受付番号4番)

そのとおりです。図面上ブルーのところは風の弱いエリアで、緑色になっているところは少し風が強いエリアになってきます。なので、この周りについては生垣沿いも含め、風としては0.8mよりも小さい風のエリアになっていますので、西側の住宅での風、それと生垣での風に対して守っていただいているというのが、この風が弱くなっているゾーンかと解釈をしています。

あくまでも我々としては近隣側から入ってすぐのところはこの広場を設けたいと考えており、そこの部分が本当に伊吹おろしの問題として大丈夫なのかを検証した上で、風の影響がほとんどないということを確認しています。

(鈴木委員)

西側の生活道路のほうに、にぎわいの顔を向けるというか、地域の中でこの学校を一番認識できるのは西側の道路で、西からパッと見たときに、学校がにぎわっていると感じ取れる配置ということですね。

(受付番号4番)

そのとおりです。我々としてはまさにこの絵のとおり、西側の正門から入ってすぐのところ、にぎわいがあるというのが米野小学校の特徴になるのではないかと考えており、建物を検討する途中の段階では、例えば体育館を持ってきた案等、様々な検討は当然していますが、やはり西側に大きな体育館を持つてくるということは、壁が多くなるので中が見えない閉鎖的な体育館より、オープンで開いた地域と交流ができる屋根のある広場を一番近隣側に近いところに持つてくることで顔を作れるのではないかと考えています。

やはり子供たちからすると、自分の学校はこういう印象的な場所があるというのが大事なことだと思いますので、そういうところも含め西側に屋根のある広場を提案しました。

(伊藤委員)

屋根のある広場について、素敵なお場所だと思います。

もし設計業務を受託された場合、今後の協議の中で先ほども多様性という言葉がありましたが、必要諸室が増えるということになった場合、内部外部ともに柔軟なレイアウト変更というのは可能でしょうか。

(受付番号4番)

可能です。可能ですと言いながら、例えば要望の中で諸室をもう少し1階に持っていきたいので、広場を少し小さくできないかということに対しては十分プ

ランの検討は可能だと思います。

ただ我々の提案したい地域の方に対して開かれた広場を作り、ここにすごくにぎわいがあるという、コンセプトは変えたくはないと思いますので、大きさは検討できますが、こういったスペースについてはこの場所で検討したいと考えています。

(中村委員)

屋根のある広場に直接面しているのが今回の提案では昇降口しかないことに関しては、地域ににぎわいを見せるということで道路に面していることも分からなくはないですが、むしろ地域に開放するさまざまな機能や諸室が屋根のある広場に面して、子供たちの領域と地域開放の領域のちょうど中間にまたがる位置にすることで、ただ通り抜ける空間ではなく、内部空間のアクティビティが自然に滲み出てくるような場所にもできるのではないかと感じました。必ずしも道路から見えるということだけではなく、内部機能からふさわしい場所が導ける可能性もあるのではと思いました。

そういう意味で今回の提案の中の交流テラスが、まさに地域開放ゾーンと子供たちの一般教室ゾーンとの間の一つの緩衝地帯になりながら、お互いの活動が見えるという非常に魅力的な場所になる可能性があると思いましたので、広場がこの交流テラスともう少しリンクした作り方もあるのではないかと感じました。

感想になってしまいましたが、この広場の位置について他に何か考えられたことがあれば教えてください。

(受付番号4番)

我々としても、おっしゃるとおりでして、通常のH型プラン等も当然検討しました。

ただ我々としては、地域会議室、体育館会議室等が地域の方が利用されるスペースで、将来的にどこまで開放するか分かりませんが、例えば最近では家庭科室を開放することもあるので、こういった諸室を西側に持ってきて、開放することはどうかということも検討しました。しかし、子供たちが発表しているステップコモンズや、中で本を読んでいる姿が見えるというのが米野小学校として特徴的な顔になるのではないかと感じましたので、こちらに踏み切って提案しました。

(富嶋委員)

南側に駐車場を作っており、遠足や修学旅行で観光バスを利用する際に、そこから十分に出入りが可能ということですが、観光バスは朝早めに来て、しばらく

滞在していることが基本です。そういったときに他の来校者、職員の車両の駐車が可能なのか教えてください。

(受付番号4番)

車寄せの幅と大きさは15mの円が内接できるもので、一般の車両であれば普通に旋回してぐるりと回ることができます。

観光バスの台数にもよると思いますが、今、提案書では77台と書いてありますが、車寄せの部分を含めると80台は確保できると思います。

通常、先生方の使用していないところにバスを停めておくということは十分可能と思いますが、専用のスペースを作ってしまうと、どうしてもそこが広くなってしまいます。

今、一番面積のロスがないような形で提案していますので、設計の中で少し広げて、バスが停まっても横を車が通れる幅を作ることは、全体のバランスの中では可能かと考えています。

車の幅は、現在2m50cmで検討していますが、例えば軽自動車等でもう少し狭く区画を割り、少し台数を調整していくことも可能と考えています。

一本だけどうしても残したい樹木がありますので、その樹木を残しながら77台としています。立派な木は極力切らないで、2m50cmの寸法を少し小さくしながら台数を稼いでいくということは可能かと思っています。

- 5者目 (受付番号3番) ヒアリング -

(中川委員)

米野小学校の校章をイメージしながら、おむすび型の校舎配置等を考えており、提案内容が非常にコンパクトになっているかと思っています。例えば交流ギャラリー、職員更衣室、創作ギャラリー等が方形の形ではなく、三角形になっていますが、こういったところはスペース的に無駄な空間が生まれるのではないかと思います。その辺りどのように考えているかというところと、駐車場が北側にあり、来客、教職員が校舎棟まで来る動線がかなり長くなり、場合によってはグラウンドの中心を歩いてくることも考えられますが、駐車場の配置についての考えや根拠などを教えてください。

(受付番号3)

1問目について、図面にあるとおり三角形の部屋になりますので、書いたままでいくと使い勝手は悪いと思います。この中で、家具や設備のスペースを角に設けて、三角形の部屋をできるだけ多角形の部屋にしようと考えています。

次に駐車場について、配置計画の中で歩車分離を一番重要に考えました。確かに駐車場から学校まで行こうとすると、100m程あるかもしれませんが、そのためにトウカエデロード、銀杏ロードというものを設け、学校へ入っていくようにしています。

南側にも児童クラブ用として、6台分の駐車場は確保していますが、大きなものについては北側に80台分取って、歩車分離を徹底しています。

他の位置に取ることもできましたが、先ほど説明したように、グラウンドを現状より1000㎡ほど大きくしており、そういった児童のためのスペースをしっかりと確保することを優先して配置しました。

(中川委員)

創作ギャラリー、国際ギャラリーなどは鋭角的な動線をイメージしてしまいましたが、どうでしょうか。

(受付番号3)

図面では点線で描いてありますが、ギャラリーの形状というのは、これからの打ち合わせの中で、丸や四角にすることはできると思います。

私たちはギャラリーの壁を使って投影や白板など、ここで何か活動が行える空間を考えていましたので、図面上鋭角になっていますが、実際は点線で描いているものは無いのではとも考えています。

(鈴木委員)

非常に魅力的な提案と思い聞いていました。おむすびの中心について、中間期の設備に頼らなくてもよい時に自然光や通風がきちんと取れ、快適な環境になっているかが少し心配ですが、何か考えはありますでしょうか。

(受付番号3)

天井ハイサイドを取っていますが、設備的なものはこの天井に色々くっつくことになります。ナゴヤドームに行った方は分かると思いますが、送風機で空気が空間内を回るようにすることで、新鮮な空気が入り、中間期は対応できると考えています。

(鈴木委員)

音環境について、オープンスペースで時々音環境の問題が出ます。ここもアクティブな活動をすればするほど音が発生するので、静粛な活動をしたい人たちをディスターブするのではと思いますが、大丈夫でしょうか。

(受付番号3)

教室については、扉がありますので大丈夫だと思います。問題になるのは、先生がおっしゃられたギャラリーの場所ですが、図書館の設計実績の中で、吹き抜けの空間が静寂を保てること、あとは多少の騒音がちょうど心地良い雰囲気になることを経験していますので、天井や壁、床の設えで吸音をしていけば、それぞれの音全てが騒音になるということは無いのではと考えています。

あとは手すりについて、高さを130cm以上にしていますので、そこでも音は遮断できると思います。

(伊藤委員)

設計業務を受託された場合、今後の協議の中で必要諸室が増える可能性があるかと思いますが、内部外部ともに柔軟なレイアウト変更は可能でしょうか。

(受付番号3)

可能と考えていますが、今のコンセプトを崩してまでも変えていくかどうかは、また協議をさせていただきたいと思っています。

コンパクトな校舎というのが提案の特徴になっているので、どこか一辺を伸ばしたいというのは、なかなか難しいのではと思います。そうすると、校舎中心部にどうやって部屋を増やしていくのか、ということになると思います。

(富嶋委員)

駐車場について、例えば怪我をした職員などを考えた時に、北側の駐車場ではやはり遠いのではと考えますが、駐車場の配置を南側に変えることも可能でしょうか。

(受付番号3)

建替計画を見ると分かりますが、今はギリギリのところまで境界を作っています。校舎南側に駐車場を確保することは可能ではありますが、そうすると教室の前が駐車場になってしまいます。

今6台確保している駐車場を、協議の中でどこまで東側に広げるか、ということになると思います。

ただ、おっしゃるとおり怪我をされた方やそれ以外にも色々な方がいらっしゃると思いますので、駐車場についてはもう少し検討の余地があると思います。

建替えの手順の中で、どうしても現存のプレハブ校舎までが境界線になってきますので、その中でコンパクトに収めようとする、今の計画となりました。

(富嶋委員)

配置を見ると、保健室は運動場に対して少し奥まったところにあります。これは例えば会議室と入れ替えが可能かということと、プールが屋上にあって良いと思いますが、プールのトイレや更衣室が下の階になっています。低学年だと、トイレの際に教員の付き添いが必要になったりするので、可能であればプールと同じ階が良いと思いますが、可能でしょうか。

(受付番号3)

保健室について、入れ替えることは可能です。今回重視したのは、特別支援教室とのつながりの中で、保健室と特別支援教室を近くに配置するために、現在の位置になっています。会議室と入れ替えた場合でも、救急車の寄りつきは可能です。

特別教室の考え方については、今後の検討の中で詳細を詰めていければ、よりしっかりとした計画になると思っています。

プールについては、プールとプールサイドを大きくしたいというところがあって、更衣室とトイレを下の階に配置しました。

例えば、プールと同じ階にある器具庫やエレベーターの空間をもう少し詰めていくと、トイレなども同じ階に入ってくると思います。

あとは、プールが体育館の上にあるので、今後の検討で体育館がもう少し大きくなれば、プールサイドも大きくなりますし、跳ね出すことも可能だと考えますので、対応は十分できると思います。

(鈴木委員)

西側住宅街からの米野小学校の見え方について、西側の生活道路が主たる道路だとは思いますが、図面上も西側に正門が書かれています。主な子供たちの出入口は南東側で、人の出入りからすると南門と書かれている所が正門とも感じられる気がします。

今提案で正門と書かれているほうは体育館があり、地域に対する見え方が学校らしくないのではと思いますが、どのように考えられたのでしょうか。

(受付番号3)

既存の校舎を見学した際に、西側に昔の正門の跡があったということ、米野っ子ストリートを曲がったものではなく、まっすぐな道にしたいというのがあり、正門の位置を設定しています。

確かに体育館の前を歩いていくとき、殺風景かとは思いますが、昔の計画など

色々なことを考えていくと、正門はまずは西側に取り、建物の形状や見え方についてはこれから考えていくのかなと思います。

ただ、南門の既存樹木と川との関係性は非常に重要なのではと考えており、東側については三角形の空間を使って緑豊かなところを作り、西側は街の風景という考えでの配置になります。

(伊藤委員)

狭い敷地の中で校庭を今よりも1000㎡も広く取っていただき、非常に良いかと思います。基本計画の中でトラックを200m、直走路で100mと記載をさせていただいたところですが、やはりそれだけを取ろうとすると、どうしても校庭を1000㎡広げる必要があるということでしょうか。

(受付番号3)

そのとおりです。100mの取り方も、斜めにするこゝとでやっゝと入るという状況で、あとは野球グラウンドも考えていくと、やはり1000㎡程広げないこのグラウンドは成立してこないかと思ゝいます。あとは、可能な限りグラウンドは広げつつ、校舎はコンパクトにしていくという考えの中で、今の計画になってきてゝいます。

(中村委員)

地域開放の明確なゾーニングという説明がありました。2階、3階の平面図で見ると、ステップリンクの廻りに音楽室や理科室などが配置されているので、そういう部屋まで解放しようとするゝと普通教室エリアとかなり重複するゾーンがあると思ゝいますが、地域開放の方法はどのように考えてゝいますか。

(受付番号3)

例えば2階についてですが、外側テラスの階段を使って登り、外から教室に入る形を考えてゝいます。これらの教室は外側、内側の両方から使えるようにしてゝおり、室内の階段も両側から使えるものを考えてゝいます。

将来的に各ギャラリーや、図書室の地域開放もあり得ますので、その場合廊下部分で区切っゝてしまえば、教室のほうには入っゝていけないので地域開放が可能と考えてゝいます。